



さわやか



子どもが向上的に変わるとき！

- ①子どもが変わるとき、それはどんなときでしょう？
- ②子どもを変えたいとき、教師は、どうすればいいのでしょうか？

①について言えば、ア：心が動く感動を受けたとき イ：気づきがあったときや、考え方が変わったとき

②については、子どもに「活動」させて、アやイの状況をつくる。その際、身に付けたい資質や能力に係わった活動を工夫する。



“自治的な学級集団に高まる5年1組

下の作文からわかることは、コウキくんが、おばさんのあいさつ手本にして「あいさつをした」ことで、それがプロのあいさつと感じ、考えました。また、あいさつが、うれしくて楽しいものであると感じ、考えました。きっと、コウキくんのあいさつは変わることでしょう。

「明るく元気に、自分からあいさつしよう」と、我々が何度繰り返して言っても子どもが変わらないのは、子ども自身の感じ方・考え方が変わらないからだと思いますが、どうでしょう！？



SSTは、心理教育

本校では、対人関係のスキルを育成する手立てとして「SST」を位置づけています。このSSTは、行動の仕方を教えるため、思考と感情を重視しています。

行動して感じたこと、考えたことを、振り返りながら明確にし、よりよい行動について意味づけ・価値付けを行いながら、自己の変容へと高めていくのがSSTです。

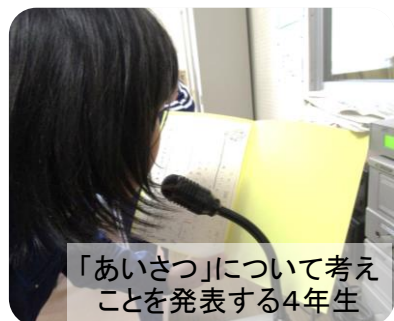
コウキくんの作文は、まさにSSTの視点を含んだ作文となっています。

子どもが活動し、伸びる教育課程・教育計画をつくる

教育課程編成の方針等は、明日の会議でお話しします。ここでは、実践計画についてお話しします。

① R (PDCA) を機能させて、改善を図りましょう。

小関先生が、「休暇（欠勤）願」を改善してくれました。我々は、こういうもんだと捉えていて、改善という考えは出てきませんでした。しかし小関先生は、「願」の活用を考えたとき（Pのところ）、一枚より一覽にした方がPを達成できると考えたのだと思います。「あいさつ運動」では、たすきをして、あいさつしています。あいさつする人が増えることを目的とした活動として、どうでしょうか。従前のやり方を踏襲することは大切ですが、Pに照らして、見直しは図れないでしょうか。



「あいさつ」について考え
ことを発表する4年生

② 子どもが「動く・活動する」教育計画をつくりましょう。

先に述べたように、子どもが活動することで、ねらい・目的に沿った感動や考え方の変化、新たな行動が生まれる活動を工夫しましょう。

「アクションプラン」の一つとして、昨日、「あいさつについて考えたこと」を放送で発表しました。5年生は、学級力を高める話し合いをしました。このように、子どもが活動する実践計画をつくりましょう。できないこと、やれないことは、計画に載せないようにしましょう。